

森林水産課  
から

## 山の日～森林クイズ～

答えはページの下だよ！

### 第1問 二酸化炭素を吸収する

木材に含まれる炭素は、樹木が成長する時に吸収されたものです。木材に含まれる炭素の重さは木材の重さの何%でしょうか。

- ① 5% ② 25% ③ 50% ④ 75%



### 第2問 酸素をつくる

日本の代表する森林が1年間につくり出す酸素は、1ヘクタール当たり11トンから23トンになります。この量は人の呼吸する酸素の何人分になるのでしょうか。

- ① 5～10人 ② 20～30人 ③ 40～80人 ④ 100～150人



### 第3問 水をたくわえ、きれいにする

森林が土の中に水をたくわえる量は、木の生えていない土地（裸地）の何倍になるのでしょうか。

- ① 2倍 ② 5倍 ③ 7倍 ④ 10倍



### 第4問 流れ出る土砂を防ぐ

木の生えていない土地（裸地）から流れ出る土砂は、森林から流れ出る土砂の何倍でしょうか。

- ① 5倍 ② 10倍 ③ 50倍 ④ 150倍



### 第5問 森林の「公益的機能」を考える

森林の公益的機能、その恩恵を金額に換算すると、日本ではいくらかぐらいになると評価されているのでしょうか。

- ① 700億円 ② 7000億円 ③ 7兆円 ④ 70兆円



参考資料

社団法人国土緑化推進機構 「森林ボランティアのための森の知識と安全なふれあい方」 森林・林業学習館

# 特集1 8/11 は山の日 山の日特集

山の日は平成26年（2014年）に制定されました。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨としています。

☎ 森林水産課 ☎ (25) 8512

近年、強風や降雪によって生活に大きな影響が生じています。特に平成30年9月の台風21号では、約7,500世帯で停電が発生し、山間部においてライフラインである道路、電気、通信が遮断、集落が孤立する事態も起こりました。こうしたことから市では、重要なインフラ施設（道路、電気、通信）に影響を及ぼす可能性がある森林（人工林）について、森林所有者や、インフラ施設管理者の関西電力送配電株式会社滋賀支社、西日本電信電話株式会社滋賀支店、高島市森林組合、国、県の協力のもと、森林整備を進めることとしました。強風や降雪による倒木が周辺に影響を与えやすいスギやヒノキから、多様な樹種に植え替えることで、災害に強い森林へと更新する予防伐採を行っています。今後自然災害による倒木被害の影響を最小限にとどめられるよう、森林所有者の理解のもと、関係機関と協力し推進します。



### 市が取り組む森林づくり事業 災害に強い森林づくり事業

山の日は何ぞ「8月11日」なのか？これは、「八」の字が山の形にみえるため「8」、木の立ち並ぶイメージから「11」と、山を連想させる数字だからだといわれています。

日本は国土の約7割が森林に覆われた世界有数の森林国で、人々は古くから森のめぐみを受けて生活してきました。

私たちにあって、森林は、資源としての木材や、きのこなどの林産物を生産する場です。

また、土砂災害等を防止する国土保全機能、湧水や洪水を緩和し良質な水を育む水源涵養機能、生物多様性の保全など、私たちが快適な生活を送るために欠かせない多くの環境保全機能を果たしています。

地球の温暖化が問題となっている現在では、森林が二酸化炭素を吸収、固定、貯蔵することによる地球温暖化防止機能が大きな役割を担っています。

森林が持つさまざまな機能を多面的機能と呼んでいます。私たちはこの多面的機能により、多くの恩恵を受けていることから、多面的機能は、公益的機能とも呼ばれています。



左上 植樹の説明を聞く参加者/左下 ウオーキングコースを歩く参加者/下 ユリノキ広場



# 「山の日 森林事業」 全国植樹祭が滋賀県で開催

6月5日(日)、第72回全国植樹祭が滋賀県で開催されました。

全国植樹祭は、森林・緑に対する理解を深めるために毎年春に開催される国土緑化運動の中心的行事です。例年、開催地で行われる式典行事には、天皇皇后両陛下がご臨席されお手植えやお手播きになるほか、開催地の特色を生かした華やかなアトラクションなどが行われます。

滋賀県での全国植樹祭の開催は47年ぶり2回目で、1回目は昭和50年5月25日、栗太郡栗東町金勝山(現在の栗東市)で開催され、2回目となる今回は、甲賀市の鹿深夢の森で開催されました。

大会テーマである「木を植えよう びわ湖も緑のしずくから」のもと、森林とびわ湖と人の繋がりの大切さと、滋賀県らしいその魅力が最大限に発信された大会となりました。



## 一般植樹会場 森林公園くつきの森

今回、式典会場の甲賀市だけでなく、県内外のさまざまな場所で植樹や関連イベントが行われ、市内でも森林公園くつきの森で植樹イベントが行われました。

当日は一般の参加者に加え、朽木西小学校・朽木東小学校・朽木中学校の皆さんや、県外の企業の皆さんにも参加いただき、約200人の方に未来の森づくりに関わっていただきました。今回植樹された苗木は「クヌギ」という樹種で、里山を代表するドングリの木です。このクヌギの苗木が今後どのように成長してどのような森になるのか、これからがとても楽しみになるイベントでした。

森林公園くつきの森をはじめ、県内各地で森づくりが行われた会場を訪れていただき、森が作られていく過程を一緒に見守っていただければと思います。皆さん一人一人の行動が、今回の全国植樹祭の開催理念である「碧く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいく」ことになるのではないのでしょうか。

## 全国植樹祭の歴史

全国植樹祭は、昭和25年4月、「荒れた国土に緑の晴れ着を」をスローガンに、戦後に荒廃した国土の復興への願いを込めて、山梨県で第1回大会が開催されました。当時の大会テーマは「荒廃地造成」。今ほど山が緑豊かではなく、山の荒廃に対する当時の人々の危機感がよく表れています。

第1回大会から72年の時が過ぎた今、山々は緑豊かな木々に覆われており、そこに緑があることが当たり前のようにとらえられています。

先人が築きあげてきたこの緑豊かな森林を、次の世代にどのような形で残し引き継いでいくのか、森林と人との関わり方を、これまでとは異なった視点で、改めて考えていかなければならない時代となりました。

## 広がる森の可能性

全国植樹祭の植樹イベントを行った森林公園くつきの森では、森づくりのイベントの他にもさまざまな取り組みや森の活用が行われています。



ぐんぐん育て！

市では、森林空間を生かした多様なサービスによって関係人口を開拓し、新たな産業の創出を目指す「森林サービス産業」の取り組みも行っています。皆さんは森とどのような関わり方をしてみたいでしょうか。これまでとは少し違う視点で森を見つめて、広がる森の可能性を、一緒に考えていきたいと思います。